

「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会 in 姫島 開催概要

〔開催日：令和7年7月4日（金）〕

〔学校訪問〕 姫島村立姫島小学校・姫島中学校

〔訪問者〕 大分県教育委員会（山田教育長、教育委員、教育次長 他）
姫島村教育委員会（林教育長、教育委員 他）

【姫島村立姫島小学校・姫島中学校の概要】

姫島村では、他の市町と同様に人口減少が深刻な問題となっており、それに伴い児童生徒数が大幅に減少している。こうした状況の中で、島に根差した教育の重要性はこれまで以上に高まっている。姫島小・中学校では、教育課程特例校の制度を活用し、「ふるさと科」を設け、地域の人々との関わりを通じて、自己の生き方を考え、課題解決能力を育むことに重点を置いた、姫島ならではの教育を模索している。



「島ならではの教育の秘密を探りたい」
山田 県教育長

【姫島小学校・姫島中学校の特色ある取組】

（1）地域との連携（ふるさと科・各種体験活動等）の取組

ふるさと科では、低学年は故郷を知る・中学年は故郷に学ぶ・高学年は故郷の未来を考えることを通して、地域理解・交流・発信型教科を展開している。小学校では、アサギマダラを守る会によるマーキングや地域の方々の指導による田植え・稲刈り・脱穀・餅つき体験を、中学校では、漁業体験・水産教室・ふるさと教室（姫島盆踊りの口説きや太鼓の練習）を実施。キャリア教育の一環として中学校で実施している「姫中生の知らない世界」は、村内外から多くの講師を招き、職業選択の参考にするのはもちろん、講師の生き方に触れ、自分の今を見つめなおし、これからの生き方を考える良い機会となっている。

また、豊後大野市や山口県美祢市とジオパーク交流を行い、お互いの地元の自然の良さを味わいながら小・中学校とも体験活動を進めている。



「今後も島独自の特色ある教育を進めたい」
林 村教育長

（2）幼小中連携

小1プロブレムの未然防止のために、架け橋期カリキュラムを作成・実施し、検証・改善を行っている。1年生が幼稚園児と一緒にたまねぎの収穫と調理教室、秋の宝物ランド等で交流。また、小中の連携として、乗り入れ授業を実施し、授業公開や互見授業を通して意見交流を行っている。また、毎年開催の幼小中連合体育大会を開催し、練習段階から一緒に活動することにより、お互いに刺激を受けたり、責任をもって行動したりと良い影響を与え合っている。



「村ぐるみの支援と幼小中の連携により、切れ目のない支援が行えている」
河野中学校長・吉田小学校長

【意見交換会テーマ】「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上
～姫島を愛し、ともに未来を切り拓く教育の創造について～
【出席者】村関係者（10名）、県関係者（19名）、計29名

【県教育委員会からの主な意見】

- 落ち着いた学習態度・掲示物に見える学びの足跡への評価
- 一人一台端末の「使うべき場面」での選択が適切
- キャリア教育「姫中生の知らない世界」は県内でも先進的な取組
- 幼小中の一貫性は、姫島村の強み
- ふるさと科の価値は、国・県の好事例としても発信可能なもの

意見を述べる
高橋 県教育委員



【共有された村の課題】（⇒下記○数字に対応）

- △教員の入れ替わりの多さ。若手中心。理念実践の組織内共有に時間と仕組みが必要⇒①
- △少子化・高校進学での島外流出。島に戻ってくる環境をどう実現するか⇒②
- △地域文化継承。伝統尊重と外部人材活用⇒②
- △小規模の裏表。個別最適化は進む一方で多様な意見との出会い、切磋琢磨の場が不足しがち⇒③
- △ICTの次の一手。タイピング等の基礎は進展。オンライン交流・メタバース等の活用はこれから⇒④

【課題解決に向けた県教育委員会からの提案・助言】

- ① 人材・組織マネジメント
 - ・若手と中堅ベテランの相互学習を仕組み化することが大切
 - ・乗り入れ授業、互見授業での活発な意見交流
- ② 地域・進路の設計
 - ・離島留学、企業連携、地場産業（養殖・水産）等との連携
 - ・伝統行事・中学校消防隊等の共助プログラムを「防災・主権者・キャリア教育」へ横断的に接続
- ③ 小規模校の価値の体系化
 - ・「適正規模」「少人数ならではの学びの在り方」等をデータで可視化すること（姫島モデル）
- ④ ICT・DXの深化
 - ・タイピング等の基礎教科を土台に、遠隔・オンラインでの校外交流を拡充
 - ・教える場面と考えさせる場面の明確化を教職員間で図ること（知識指導→探求への接続）

【まとめ】

姫島村の教育は、「地域資源×連携教育×小規模」の強みを核に、学力・学習態度・文化継承を好循環させている。次なる段階は、多様性との出会いを設計するICT活用、小規模校の価値の理論化・可視化、進路と地域を循環でつなぐ仕組みの導入ではないかと考える。

県教育委員会として、モデル化と発信の後押し、遠隔交流やデータ化の支援を行い、村と連携して、より良い教育支援を進めていきたい。



村からの参加者のみなさん